

2020年度（令和2年度） 関西創価中学校 学校評価

【教育基本目標】

<1> 「語学」と「読書」を柱に、主体的に学ぶ生徒の育成	【可能性の育成】
<2> 「感謝」の心を大切に、他者を認め、互いに励まし合う生徒の育成	【心の育成】
<3> 創立者に学び、世界市民となりゆく生徒の育成	【世界市民の育成】

【中期的目標】

<p>〔Ⅰ〕 教育理念に基づく「人間教育」の推進</p> <p>(1) 「語学」と「読書」を柱に、主体的に学ぶ生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら学び、互いに学び合う」学習習慣を身につける。 ・4技能習得を目指し、外部試験なども活用しながら、英語力の向上を図る。 ・朝読書とビブリオバトルをさらに充実させ、世界の名著に挑戦する。 <p>(2) 「感謝」の心を大切に、他者を認め、互いに励まし合う生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自ら」「明るく」「笑顔」であいさつする習慣を身につける。 ・協働を通して他者を称え、「ありがとう」と感謝の心を伝える。 ・1分間スピーチを通して「話す力、聞く力、他者とつながる力」を育む。 <p>(3) 創立者に学び、世界市民となりゆく生徒の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の教育活動や各種行事の取り組みを通して、創立精神を学ぶ。 ・社会で活躍する方の講演会や懇談会などを通して世界市民としての資質を育てる。
<p>〔Ⅱ〕 教育力向上への挑戦</p> <p>(1) 授業力向上の取り組み☒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学びの実現」に取り組む。 ・ウェブサイトなども活用し校内研修をさらに充実させるとともに、外部研修に積極的に参加する。☒ ・授業を見学し合い、互いにアドバイスし、切磋琢磨し合う。 <p>※学習指導要領の改定に対応する新カリキュラムの編成に取り組む。</p> <p>(2) 生徒理解への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教員で生徒一人ひとりとの個人面談を積極的に実施する。 ・総合調査やアンケートを通して一人ひとりの状況を多角的に把握し対応する。 <p>(3) 支援教育への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の状況に合わせた教育を推進するとともに多様性に応じた教育環境を整える。 ・「支援センター」（仮称）を設置し、サポート部を中心に支援教育を推進する。
<p>〔Ⅲ〕 「無事故の学園生活」に向けた安心・安全への取り組み</p> <p>(1) 各種セミナーを実施し、正しい知識を身につけ、マナーの向上を図る。</p> <p>(2) 通学路の安全対策強化とともに、登下校マナーへの意識改革を図る。</p>

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>【生徒に対する取り組み】 授業アンケートの結果は、項目を比較できる2016年度以降毎年改善され、最高の結果が出ている。中でも設問3、4、6は昨年度より大幅な向上を示しており、教員の授業力向上が伺えた。</p> <p>本年度よりサポート部を立ち上げ、「学習支援」から「個別支援」へと軸足を移した。学年・養護教諭・スクールカウンセラーとの連携を更に密にし、「一人も置き去りにしない」学校運営を進めていきたい。</p> <p>【保護者に対する取り組み】 新型コロナウイルス感染症対策の為、保護者に直接来校していただく形の行事は全て中止となった。いくつかについては、オンライン配信を行ったものもあったが、保護者満足度の面ではまだまだ課題の残るものも多い。 行事の精選も含め、「新しい生活様式」に則った形での行事運営について、今後も検討を進めていきたい。</p> <p>【教員に対する取り組み】 一堂に会しての会合が行えず、前半は月例の校内研修等を開催できなかった。後半にはオンラインも活用した研究授業を実施するなど、新しい形での研修を模索しながらの取り組みとなった。 またコロナ禍でオンライン開催となる研修が増えたことからハードルが下がり、外部研修に参加する教員も増えてきている。</p>	<p>・今年度は休校・リモート学習等、全員が初めての経験で手探りの部分も多くありましたが、学校の早急な対応と生徒のすばらしい順応性で、学習意欲を損なうことなく学びを継続できたことがアンケートからもうかがえました。</p> <p>・設問9が他に比べて低かったことは、設問2と合わせて見ると、生徒の自主性に課題があるのでは、と感じました。様々な制限の中ですが、今後に期待します。</p> <p>・行事への参加や授業公開、保護者面談など、保護者が学校生活を見る機会がなく、生徒の様子を細かく知ることが難しい1年でした。そんな中、学級通信など工夫してくださったことは保護者の安心につながっています。</p> <p>・Chromebookの活用は評価できますが、際限なくダラダラと見てしまったり、授業中に関係のない動画を見たりと良くない面もあるようで、今後どのように自律して使用するかが課題だと思います。</p> <p>・オンライン授業という初めての状況に、柔軟に対応していただけたおかげで、登校再開後もスムーズに対面授業に入っていたと感じます。 外部のオンライン研修参加とともに、今一度校内での授業見学で意見交換することも、教育力向上の取り組みとして欠かせないことだと感じます。</p>

【本年度の取り組みについて計画・実践・評価指標・自己評価】

中期的目標	今年度の重点目標	取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
教育理念に基づく「人間教育」の推進	(1) 【可能性の育成】 ・ 「自ら学び、互いに学び合う」学習習慣 ・ 4技能習得を目指し、英語力の向上 ・ 世界の名著に挑戦	グローバルパスポートを活用し、読書や資格試験、コンテスト等の取り組みを推進 4技能習得をめざした授業の展開と全員が学年に応じた英語外部試験の結果 ・ 全校生徒が朝読書やビブリオバトルで、世界の名著に挑戦	グローバルパスポートの活用率10割を目指す 英検取得(3年:3級、2年:4級、1年:5級以上)率10割を目指す ・ 最低1冊以上の名著読破率8割を目指す	活用率は8割にとどまったが、キャンペーンや学年裁量マイルなどの活用アイデアも出された コロナ禍ではあったが、英検の全員受験を実施することができた 図書館の「名作駅伝」の取り組みに国語の授業で参加した学年もあり、少しずつ機運が高まっている
	(2) 【心の育成】 ・ あいさつする習慣 ・ 感謝の心を伝える ・ 他者とのつながり	校内外でのあいさつの実践を推進 協働の中で、他者の長所を見つけ、「ありがとう」を伝える 「全校対話会」等、対話を重視した取り組みの実施	あいさつへの取り組みにおいて、満足度10割を目指す 「ありがとう」を伝える取り組みにおいて、満足度10割を目指す 「話す、聞く、つながる」力の観点で、満足度8割を目指す	校門で生徒会が自主的に挨拶運動に取り組むなど機運も高まってきている。 コロナ禍で消毒や給食運搬を分担するようになり、互いに感謝する言葉が自然に出るようになった。 一部オンラインを取り入れるなどの工夫をしつつ対話会を実施、65%以上のプラス評価を得た。
	(3) 【世界市民の育成】 ・ 創立精神を学ぶ ・ 世界市民の資質を育てる	生徒会活動や三大行事、道徳等を通して、創立者の哲学を学ぶ 講演会や懇談会を通して、より良い社会人として必要な資質を育てる	「創立精神を学んだ」満足度10割を目指す 「より良い社会人の資質が身に着いた」満足度8割を目指す	特に、皆で団結してリアルでの競技大会を実施できたことで、100%のプラス評価を達成した。 コロナ禍で文化講演会も1回しか実施できなかったが、非常に好評であった。
教育力向上への挑戦	(1) 授業力向上 ・ 「主体的・対話的で深い学び」に基づいた授業の実践 ・ 研修参加の推進 ・ 授業改革への挑戦	全教員がアクティブラーニングの授業に挑戦する 外部研修への参加推進と校内研修の充実に取り組む 公開授業を実施し、教科を超えた意見交換を行う	アクティブラーニングの授業実践の達成率10割を目指す 外部研修への参加達成率10割を目指す 授業改革の「実践と報告」率10割を目指す	9割以上の教員が何らかの形で挑戦しプラス評価をしていた。 中止になった外部研修も多く参加率は43.5%にとどまったが、オンライン研修への参加が増加した。 授業改革への挑戦でプラス評価をした教員が9割を超えた。
	(2) 生徒理解 ・ 個人面談の実施 ・ アンケートの実施	全員との個人面談を実施する 生徒、教員ならびに保護者へのアンケートを実施する	全員との個人面談(年3回以上)実施率10割を目指す アンケートによる調査報告実践率10割を目指す	臨時休校期間にオンラインで1回、登校再開後に対面で1回の個人面談を実施した。 オンライン授業期間の総括、並びに対面授業期間の総括について、それぞれアンケートを実施した。
	(3) 支援教育 ・ 個別支援の実施 ・ 支援センターの設置	英語・数学において、個別の学習支援を実施する 支援センターでのサポート体制を整える	個別学習支援の実施率10割を目指す 支援センター設置における満足度8割を目指す	英語・数学個別授業にとどまらず多くの教科で被サポート生徒に対する個別授業を実施した。 サポート部の設置と、支援センターの運営に対しては、概ね高評価を得ている。
安全・安心への取り組み	(1) 各種セミナーの実施	各種セミナーを実施し、ルールやマナーの徹底を図る	各種セミナーにおける満足度8割を目指す	外部講師を招いてのセミナーは実施できなかったが、オンラインで行ったものは概ね高評価だった。
	(2) 登下校マナーの徹底	定期的な登下校指導を実施する	登下校マナーにおける満足度8割を目指す	登下校マナー向上への指導についてのプラス評価は78%であった。

【まとめと改善点】

自己評価と学校関係者評価を踏まえ、今後の重点的な目標・指導計画・改善方策および学校運営のあり方について、以下にまとめました。

1. 今後、重点的に取り組む目標・計画

学校教育目標においては、PDCAの観点より生徒ならびに保護者の声を反映した見直しを行い、さらなる生徒の健全な育成のため、より具体的な教育目標を掲げていく。

目標に示した各項目については、なお一層、その成果を上げるための計画および具体的な改善方法を検討し、教員全体への情報共有を徹底して、学校変革を推進していく。

① 教員の資質向上

教員の教育力向上のために人材育成の研修体制を整え、全教員が各自のテーマに沿った研究を進める。校内においても、青年研修、生徒指導研修、生徒支援研修など定期的を開催する。また、公開授業や研修に役立つ総合情報ウェブサイトを活用し、個々の研修の機会拡大と充実を図る。

② 授業の充実

生徒の主体性、積極性、創造力等を培うため、「主体的・対話的深い学び」の実践に取り組み、研修やセミナーへの積極的な参加、研究授業の実施、管理職による学期1回の授業参観、また公開授業の取り組みを通じて、教員間の情報共有をさらに深め、個々の授業力の向上をめざす。

③ 読書教育の充実

生徒全員が積極的に読書へ取り組み、「ビブリオバトル」も継続して開催する。また、授業での図書館の利用を積極的に進めるとともに、「名作駅伝」への参加を広く呼びかけ、古今東西の名作に挑戦する生徒数を増やす。

④ 生徒支援の充実

特別支援コーディネーターを中心に、昨年度発足させたサポート部をさらに充実させ、生徒の多様性に応じた教育環境を整える。

⑤ 生徒の評価活動の充実

生徒の「学び」への取り組みを総合的に評価するための「グローバルパスポート」を積極的に活用する。学びの分野をさらに拡大し、積極的に取り組める環境づくりを推進する。

2. 今後の学校運営のあり方

「最大の教育環境は教師自身である」とは「創価教育の精神」であり、教員の資質向上こそが「学校教育力」の基礎と言える。本校では創立精神や教育方針を根幹に据えつつ、生徒・保護者のニーズに応える教育活動を展開していきたい。そのためには、保護者ならびに学校を支えてくださっている関係者の方々による評価を謙虚に受け止め、常に改善に努めていく。また、教育内容の充実を一層図るとともに、教育目標が達成できるように計画を立案し、学校組織を整えていく。さらに、教員研修への参加を推奨し、教員の資質向上に努め、学校全体の教育力向上に一層努めていきたい。